

看護学科

3年

科目名: 保健医療福祉統計概説				担当教員 氏名: 炭谷靖子、村井嘉寛、境美代子、北濱まさみ、堅田智香子、寺西敬子、村田美代子、若瀬淳子、蘭直美	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	3年次 後期	専門基礎科目	講義	必修	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
・国民衛生の動向、福祉の動向をテキストとして、日本における保健・医療・福祉に関する統計的数値の意味を学び、看護実践における重要な数値とは何かを理解する。 ・講義の方法は、各専門領域の教員がそれぞれ担当し、保健・医療・福祉の現状を確認し今後の展望についてディスカッションしながら進める。 ・看護師として総合的な知識を確認する。					統計指標 疾病対策 医療対策 福祉対策
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 6. 9. 10	
A 知識・理解力		①衛生の主要指標と結びつけながら、健康増進と生活習慣病対策について考える。			
C 論理的思考力		②衛生の主要指標と結びつけながら、母子保健について考える。			
D 問題解決力		③衛生の主要指標と結びつけながら、感染症対策について考える。			
		④衛生の主要指標と結びつけながら、精神保健について考える。			
		⑤衛生の主要指標と結びつけながら、疾病対策(腎疾患・リウマチ・アレルギー)について考える。			
		⑥衛生の主要指標と結びつけながら、疾病対策(がん、難病)について考える。			
		⑦衛生の主要指標と結びつけながら、地域包括ケア、介護保険、在宅看護について考える。			
		⑧衛生の主要指標と結びつけながら、医療対策・健康増進・生活習慣病対策について考える。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 100 %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: %	
特記事項: 授業はこれまでの学習の総まとめとしての評価判定とする。					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 毎回の授業時に小テスト、終了後にまとめて本試験を実施する。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 毎回の授業でフィードバックし、最終試験に備える。					
授 業 計 画			事前・事後の学習課題		
①【村井】基礎医学について考える。			国民衛生の動向・テキストの確認		
②【村田・若瀬】母子の保健と看護について考える。			学習事項についてノートを作成		
③【堅田】基礎看護について考える。			不明事項の書き出し、事前学習		
④【蘭】精神保健について考える。			小テストの振り返り		
⑤【境】疾病対策(腎疾患・リウマチ・アレルギー・感染症対策)について考える。			不確かな事項についての事後確認		
⑥【北濱】疾病対策(がん、難病)について考える。					
⑦【炭谷】地域包括ケア、介護保険、在宅看護について考える。					
⑧【寺西】医療対策・健康増進・生活習慣病対策について考える。			上記について毎回確実に実施すること		
使用テキスト: 国民衛生の動向(厚生統計協会) 図説国民衛生の動向(厚生統計協会) 第106回看護師国家試験 本試験問題と解答・解説集(東京アカデミー)			その他参考文献など: 国民の福祉の動向(厚生統計協会) 国家試験問題集		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 各授業にはこれまでの授業の振り返りを十分に行って臨むこと。					

看護学科

3年

科目名：総合実習				担当教員：境美代子、寺西敬子、堅田智香子、若瀬淳子、小出えり子、中田智子、中井里江、今村葉映 他	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	3年次 後期	専門科目	実習	必修	
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード
臨地実習の最終に開講される科目である。それまでの実習経験を踏まえ、理論と実践の統合を目指し思考を深めることにより、自己の看護観を確立する。さらに卒業後の課題を明確にし生涯学習への自己教育の契機とする。(臨地実習)					理論と実践の統合 看護観 看護管理
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		4. 5. 6. 9. 10	
A 知識・理解力		①理論と実践の統合を目指し思考を深める			
B 専門的技術		②自己の看護観を確立する。			
C 論理的思考力		③卒業後の課題を明確にし生涯学習への自己教育の契機とする。			
D 問題解決力					
E 自己管理能力		⑤実習中の自己の健康管理ができ、欠席しない。			
F チームワーク・リーダーシップ		⑥グループで実習を遂行できる。。			
G 倫理観		⑦適切な報告、連絡、相談ができる。 ⑧真摯な態度で実習に臨むことができる。			
H コミュニケーション力		⑨実習にかかわる人々と意思疎通ができる。			
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト： %	レポート： %	発表： %	実技試験： %	その他： %	
特記事項： 以下により総合的に評価する。 ・出席状況・実習記録類・課題レポート・実習中の学習態度 * 提出物は期限を厳守すること * 原則として遅刻、欠席は認めない					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：					
授 業 計 画					
3年次 2単位：90時間 実習施設： ・富山協立病院 ・射水市民病院 ・八尾総合病院 ・金沢医科大学氷見市民病院 ・高岡ふしき病院 ・真生会富山病院 ・厚生連高岡病院 他 * 詳細については実習要項に記載					
※原則、就職内定者は当該病院実習を優先する					
使用テキスト：			その他参考文献など：		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： * 遅刻、欠席は原則として認めないので、健康および生活の自己管理を十分に行うこと * 基礎・領域別実習を統合させた実習とする					

看護学科

3年

科目名: 看護研究Ⅲ(事例研究)				担当教員 氏名:北濱まさみ、炭谷靖子、 境美代子、寺西敬子、堅田智香子、 村田美代子、若瀬淳子、今川孝枝、 小出えり子 他		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	3年次 前期	専門科目	演習	必修		
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
看護実践の場での看護展開や学びの実践活動事例をまとめ、学内で事例研究として報告する。まとめる過程で、看護実践と理論との比較や検討を行い実践における理論の活用について学ぶ。また、看護実践を言葉にして他者に伝えることを体験し、その必要性について学ぶ。					看護実践、事例の問題解決、理論と実践の統合、論文の書き方、発表能力	
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 7.		
A 知識・理解力		看護実践の問題を見つけることができる				
C 論理的思考力		理論と実践の統合を目指し思考を深める				
D 問題解決力		看護実践の中の問題に関する解決策を考える				
E 自己管理能力		看護実践を研究論文としてまとめることができる				
H コミュニケーション力		看護実践を言葉にし他者に伝えることができる				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: %	発表: 50 %	実技試験: %	その他: 50 % (授業への参加態度や発言)		
特記事項:						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 以下により総合的に評価する。 ※グループワーク参加状況 ※事例研究報告書 ※プレゼンテーション						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:						
授 業 計 画						
平成29年4月 日()~4月 日()個人でまとめる						
平成29年4月 日()~ 日()プレゼンテーションの準備						
平成29年4月 日()、 日()プレゼンテーション(口演)						
平成29年4月 日()~ 日()まとめ						
使用テキスト:				その他参考文献など: 看護理論に関するものなど適宜参考にする		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ○担当教員との連絡を密接に行い、積極的に指導をうけること						